

2019年度 教員の自己点検・自己評価報告書

| | | |
|-------------------------|-------|-----------|
| 所属学部 学科 | 職位 | 氏 名 |
| 教育学部 子ども発達学科 | 教授 | 柿原 聖治 |
| 最終学歴 | 学 位 | 専門分野 |
| 広島大学大学院 教育学研究科 単位取得満期退学 | 教育学修士 | 理科教育、算数教育 |

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

一人ひとりの学生を大切にし、親身になって寄り添い、学生の学業成績の向上に努める。
 学生の満足度を上げるように努力し、結果的に授業評価が上がるようにする。
 建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に沿うような人材の育成に努める。
 教員採用試験に1人でも多く合格させる。

(計画)

授業では、教師によるデモンストレーションではなく、学生一人ひとりが自分たちで実験や制作活動ができるように、教材や道具を学生の数だけ準備し、学生が自由に学習できる環境を作る。安全に配慮し、学生の主体性を引き出す。
 空き時間にはできるだけ研究室を開放し、今年も教員採用試験の勉強会を行う。試験対策で困っている学生をできるだけ多く救う。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

理科、幼児の科学、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、
 専門演習Ⅲ

(後期)

生活科教育法、理科教育法、東邦プロジェクトA、生活、サービス・ラーニング実習Ⅱ、
 基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

あまり条件を付けずに、自由に実験を行わせてみた。具体的には液体窒素を使って、好きに実験を考える課題を学生に与えた。思いも寄らない実験を考えた学生がいて、感心した。

○作成した教科書・教材

パワーポイントのスライドを数多く作成し、授業で提示した。

○自己評価

学生の評価アンケートで、あまり好評を得ていないので、もっと努力する必要があると思っている。
 ただ、学生は活動を伴った授業にはよく取り組んでくれたので、一定の成果はあった。

II 研究活動

○研究課題

理科の実験教材づくりと、算数的活動の開発

○目標・計画

(目標)

理科の授業が楽しくなるような実験を取り上げ、その教材開発を行う。算数も、理科と同様、道具を使った活動を中心とした授業を考える。

(計画)

理科も算数も、頭だけで考えるのではなく、道具を使って視覚的・感覚的に理解させる教材開発を行う。折り紙の利用やコンパスを使った作図などを多く取り入れ、楽しい算数・理科にする。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・今津孝次郎、西崎有多子、白井克尚、中島弘道、新實広記、伊藤龍仁、柿原聖治、伊藤数馬、『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』、2019年、唯学書房

(学術論文)

- ・柿原聖治「錯覚や意外性を取り入れた図形の指導—小学校の数学的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第2号、p. 33-43、2018
- ・柿原聖治「作図によるルーローの三角形、正六角形づくり—算数的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第1号、pp. 49-56、2018
- ・柿原聖治「パズル作りを取り入れた算数的活動」東邦学誌 第46巻 第2号、p. 105-112、2017
- ・柿原聖治「正四角錐、正四面体を折り紙で作る方法とその利用」東邦学誌 第46巻 第1号、p. 119-126、2017
- ・柿原聖治「正三角形を折り紙で作る方法の実践的研究」東邦学誌 第45巻 第2号、p. 117-124、2016
- ・柿原聖治「燃焼の仕組みを理解させる—火おこし器で発火させる方法を通して—」東邦学誌 第45巻 第1号、p. 73-78、2016
- ・柿原聖治「化合の実験材料としてのカルシウムの活用」東邦学誌、第44巻 第2号、p. 111-115、2015
- ・柿原聖治「ポンプを利用した日用品のモデル作り」東邦学誌、第44巻 第1号、p. 139-149、2015
- ・今津孝次郎、新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」東邦学誌、第44巻 第1号、p. 211-231、2015
- ・柿原聖治「気体の分子運動に関するモデル実験と授業展開」東邦学誌、第43巻 第2号、p. 105-116、2014
- ・柿原聖治「ヘアの装置につなげる授業」物理教育、第60巻 第4号、p. 264-265、2012
- ・柿原聖治「液体の分子運動モデルの開発と授業展開」物理教育 第60巻 第3号、p. 179-183、2012
- ・柿原聖治「教訓茶碗から発展させた授業」物理教育、第60巻 第1号、27-28、2012

(学会発表)

なし

(特許)

なし

(その他)

- ・月刊誌『理科の教育』各号の目次を英語に翻訳

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

今年だけ申請しなかった。

○所属学会

日本理科教育学会、日本物理教育学会

○自己評価

算数・数学の研究を主に行ったが、もっと研鑽を積む必要がある。また、理科や実験教材づくりの

研究も行ったが、まだ形となっていないので、これからもっと努力すべきだと思っている。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

(目標)

教育現場に求められているニーズを読み取る。それに応えるには何ができるかを考え、できることから実践していく。学生がサービス・ラーニングができる素地を増やしていく。

(計画)

大学連携講座を日進市と行っているので、今年も理科実験・算数的活動について講座を持つ。

「東邦プロジェクト」を担当して2年目なので、小学校や保育・幼稚園などとの連携をもっと探り、その充実を図る。

○学内委員等

地域連携委員会委員、教職支援センター運営委員会委員、生協委員会副委員長、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員

○自己評価

教職支援センター委員では、模擬試験の数を増やし、学生の受験機会を増やす取り組みを行った。模擬試験を年間スケジュールに位置づけ、学生が計画的に受験できるようにした。地域連携委員としてはポスター発表を定式化した。しかし他の委員としては十分ではなく、もっと努力すべきだと思っている。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

(目標)

大学の発展のために、真面目に努力して貢献する。信頼して事を任せられた職務は、全力を上げてまっとうする。大学運営がスムーズになるように努力を怠らない。

(計画)

教育は天に事うる職分なので、与えられた校務は真面目に取り組む。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

・平和が丘小学校の土曜企画を、学生たちと考え、実施した。講義科目「東邦プロジェクト A」で行ったものである。

・日進市で「理科と数学の楽しいものづくり」を行った。

○自己評価

学内の「地域と連携した授業・活動報告会」で発表し、「地域連携賞」を頂いた。また、日進市での活動も非常に好評であったので、ほぼ目標を達成できたと考えている。

Ⅴ その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

来年度から講義「数理の世界」を担当することになった。普通は数式だけ行う数学を、物づくりを中心とした具体的な活動を伴う数学に変えようと考えてきた。数学をパズルふうの問題を解かせるようにして、楽しく数学を教えたいと考えている。

さらに、「算数」「算数科教育法」が担当できるところまで自己研鑽を積みたい。

VI 総括

本年度は、入試問題関連の仕事に非常に専念した。細心の注意が必要であって、無事に終わった後やりがいを感じた。

算数・数学のこれまでの研究が報われて、講義「数理の世界」を担当することが決まった。これは大きな成果だと考えている。

ただ、学内の委員としては、まだ力不足で、種々の努力が必要であると痛感している。

以 上